



北海道医歌人会詠草

初冬

江別 三宅 浩次

背を丸め歩む人らの足さきを落葉が舞う音たてて舞う
早朝の部屋の隅まで冬日差し届くところにぬくもりをみる
北海道に引越して来た人本州より暖かいという家の中では
鉛色、暗さ、寒さ、負の連想それ跳ね返す青空もある
ざわめきの政治の世界を別として自然は流れ冬始まりぬ

アベ選挙

札幌 古屋 統

税増えて年金目減り北の冬老いの暮らしの日毎に厳し
アベ選挙一強多弱つよき者のみが潤う票集めなり
アテになる野党はあらず止むを得ぬ票を集めて政権延びる
消費税値上げの分が幾百億選挙国費に振り替る奇異
印刷業弁当業者を潤はす解散選挙つべこべ言うな

毛陽リング園

美唄 吉村 誠治

台風はことなく過ぎて晴れ渡るリング園の道紅葉のとき
挽きたてのリング求めて帰り来ぬ近所に配り行くも楽しく
送り状書く手に力入りたり今年このリングは上々と聞き
我が庭の満天星つじのこの赤さ三十年の年月すぎて
この秋は庭の紅葉見事なり異常気象の落着くを待つ

イタヤカエデ

札幌 浜島 泉

新ソバの入荷を告ぐる張り紙にイタヤカエデの葉など配して
格別の台風と言ふリングなど産地は如何に収穫季なれば
草木の色と実りを眺めんと河畔の土手へ妻を誘(いざな)ふ
紅葉の最頂季なり朝日受け霜と紛れて映ゆる山肌
2年前在宅看取りの我が講義傾聴せりと通夜の日に聞く

送りびと

釧路 兎玉 昌彦

子もなくて気丈にひとりを生きぬきし九十五年が今幕を閉ず
暖かくなれば家へと語りいし親父の夢は一夜でついで
寿命とは何なのだろう順調に回復重ねた最後の一步で
危篤だと言われ続けて生きる人理由も分らず突然死ぬ人
眠るごと我れも逝きたしそれだけが長生きをする最大目的

秋空

旭川 稲積 文子

紅の色鮮やかに眼底に焼きつく如し今年の紅葉
言葉なくわびしさに耐えるナナカマド赤き実残して秋空に立つ
理解されぬ事多かればしみじみと母に甘えし記憶少なく
常識を逸脱したる若者等何故叱られるのかもわからぬらしい
我が歳を知ったの上かいたわりの言葉を残して立ち去る患者